

アリサハサタツネ 有澤貞庸 通稱數馬・
才右衛門。初諱貞涉、淡水堂と號する。寛政元年新知百五十石、組外に列し、二年父才右衛門貞幹の遺知四百五十石を襲ぎ、御馬廻となり、五年不愼の厩に依つて逼塞を命ぜられたが、享和二年御免、次いで御近習番・御使番より次第に昇進して大組頭に至り、天保八年致任して有澤齋と號し、俸二十人扶持を食み、同年七月八日歿した。その著に高德公年表・瑞龍公年表・微妙公年表・護國公年表・温敬公年表・有澤貞庸覺書・甲陽軍鑑軍配記聞等がある。

アリサハサタモト 有澤貞幹 通稱小太郎・才右衛門。元文四年父森右衛門武貞の祿三の一を襲ぎ、寛保二年本知二百石に復して組外に列し、御近習番・御使番から次第に昇進して御鎗奉行に至り、天明五年百五十石を加へ、寛政元年後儀御免、二年五月廿六日歿した。貞幹字は伯因、藍水堂と號し、兵學を家業とし、傍ら和歌を嗜み、その著に甲辰紀行・城取奥秘九箇條記聞・大星相傳之卷等がある。

アリサハサントイ 有澤三貞 有澤永貞及びその男武貞・致貞共に兵學を以て知られ、世に稱して之を三貞といつた。

アリサハタケサダ 有澤武貞 通稱森石衛門。字は伯起、號は桃水軒。永貞の長子である。寶永六年新番となり、正徳五年父采女右衛門永貞の遺知三百石を襲ぎ、新番頭支配に屬し、享保元年組外に列し、九年御細工奉行に任じ、十九年御免、元文四年九月廿五日歿した。享年五十八。武貞家學の甲州流の兵學に精しく、著す所が多い。その町見術は父と共に之を富山の藤井半知に受けたもので、著述

は概ね左の如くである。
有澤武貞覺書 諸物直段考
諸邦諸品雜誌 耕稼春秋圖會
加陽城下武士町細見之圖
金澤城下町割正極之圖 甲陽軍鑑末書纂註
甲陽軍鑑軍配増註秘解甲陽軍鑑全部軍配相傳之品目
兵法急務要用 兵法五問自答
城取練習仕様抄 城繩註解永貞共編
四對八城論永貞共編 十役之抄
甲陽身度量之書 黔韜秘策類編
兵學雜話永貞致貞共編 來幣傳受之師說
兵武考略附軍役内考 全昌武貞問答
太田持資流之軍書拔萃 當戰案稿

アリサハトシシゲ 有澤俊盛 通稱太郎左衛門。采女長俊の長子。五百石を領して御小將御番頭に任じたが、寛永十九年九月九日江戸邸の式臺に於いて、大小將井内清兵衛の爲に斬られて即死した。この際清兵衛も負傷したが、後に切腹を命ぜられた。

アリサハトシズミ 有澤俊澄 通稱孫作。采女長俊の次子。父の歿後その遺知の中三百石を襲ぎ、大小將に班し、前田光高の御部屋附から會所奉行・高岡町奉行となり、延寶五年六月十四日七十一歳を以て歿した。

アリサハナガサダ 有澤永貞 孫作俊澄の子。初諱俊貞。通稱九八郎・采女右衛門。字は天淵、號は高臥亭。その井に梧桐あるを以て、門人梧桐庵先生と呼んだ。延寶元年召出されて大小將となり、二年新知二百石を賜ひ、五年父の封三百石を分かたれて自知を除き、表御納戸奉行・細工奉行・世子附足輕頭となり、正徳五年十一月七日歿した。年七十七。永貞初めその叔父關屋政春に就いて武田氏の軍法を

學び、後山鹿素行・佐々木秀乘に従ひ、遂にその蘊奥を極め、また兵學に町見の必要なるを知り、之を富山の藤井半知に受けた。半知はもと江戸の書賣で、最も町見術に通じ、圖翁遠近道印と號したものである。貞享中永貞が北道里圖を著して金澤江戸間の地理を記したのは、その知識に基づいたものであらう。その著述は概ね左の通りである。

加陽日蓮宗異論記内題、日蓮宗論谷妙成寺日新式目録異論動之記
永貞遺訓抄内題、自修著 宿直所廻記
有澤永貞筆記 湯浦隨筆
加賀藩封地由來書 大正持淺井表聞書
淺井繩手迫合略志 加陽備定一名、加陽備考
攝州大坂表加越能三州之軍勢備定
攝州大坂岡山表寄手加州備立大概之圖
飛州高山城在番備考 關屋系譜
加陽諸士本末系譜略記 土肥有澤略傳
土肥家記 甲陽軍鑑略譜
甲陽軍鑑註解内題、甲陽軍鑑末二書通解
甲陽軍鑑末書通解 甲陽軍鑑末書結末本通解
甲陽軍鑑軍配自註内題、甲陽軍鑑全部軍配相傳之品目
甲陽軍鑑軍法之卷三箇條合戰備定輯說
甲陽軍鑑軍法之卷旅亭曉困鈔
甲陽軍鑑攻戰地理之圖 兵法修鑑抄
兵法拔書疋夫之抄附軍法之卷圖解
兵法拔書疋夫之抄圖解 兵法免狀自註
兵法拔書疋夫之抄私解 城取奥秘九箇條疏註
城取奥秘九箇條裏之傳之内極秘
城取離格問答 城取本元抄
城取私考 城取品節抄
城繩註解武貞共編 四對八城論武貞共編
八陣自註附八陣圖說 案見自作覺書
五百騎案見書 四百騎案見之圖

百騎二備案見圖斷 武田備要抄
一騎武者受用之卷外題、疋夫受用之卷
樞密要論 軍學七德試註
軍學大基 軍學受用
備要小解一名、武田備要抄 大星二乘之傳
黔韜秘策 羽絨雜輯
四戰略譜柳川・神保、長澤・關原 四戰前後略譜
四戰前後書翰内題、四戰前後諸方書翰雜集
四戰書翰 四戰前後問議
四戰問議 四戰場之圖
四戰場之圖斷 革命四戰圖斷
四戰細圖 四戰分圖
柳瀬合戰略記 關原合戰略記
武備實用治世私考之卷 全書篇題之論目
兵學雜話武貞致貞共編 武教全書解

アリサハナガトシ 有澤長俊 通稱采女。先祖は新川郡弓庄城主土肥氏の庶出で、同郡有澤村に居住した。長俊初め上杉景勝・最上義光に仕へ、元和二年前田利常に仕へて千石を賜はり、金の番取衆に列し、寛永八年六月廿三日歿した。

アリサハノリサダ 有澤命貞 通稱三郎四郎。倚貞の弟でその後を襲いだもの。明和七年遺知三の一を受け、八年本祿二百石に復し、組外に列し、天明二年御馬廻に轉じ、武具奉行に任じ、寛政六年十二月六日三十八歳を以て歿した。甲陽軍鑑軍配再傳記聞の著がある。

アリサハムネサダ 有澤致貞 通稱惣藏。采女右衛門永貞の次子、森右衛門武貞の弟。享保元年新番に列し、五年新知百五十石を受け、組外に列し、十二年御武具奉行となり、十八年養父同姓彌三郎致遠の遺知二百石を襲